

優秀賞

安藤 綾音(あんどう あやね) 由井第一小 3年生

作品名:力を合わせて心をつに

図書:しゅくだい大なわとび

わたしは「しゅくだい大なわとび」という本を読みました。この本をえらんだのは、友だちにこの本のシリーズがおもしろいと教えてもらい、気になっていたからです。

この本は、三年生の男の子・ぼくが主人公の物語です。二週間後、三年生でクラスたいこうの大なわとび大会があるのに、ぼくは大なわとびがとべません。そのことをバカにしてくる友だちもいて、いやな気持ちにもなったけれど、ぼくはとぶことができるようになりたいから、大なわとびの練習をします。

わたしがこの本を読んで、心にのこったところは、二つあります。まず一つ目は、大なわとびができないぼくのために友だちや家ぞくが練習につきあい、とべるようにアドバイスをしてくれるところです。わたしはこの部分を読んで、とべないぼくのために友だちや家ぞくがきょう力するところがいいと思いました。二つ目は、ぼくがアドバイスをすなおに聞いて、さい後まであきらめなかったところです。ぼくはとびたい気持ちはあるけれど、なかなかとべるようになれません。わたしは、そんなぼくのやる気とアドバイスを守って練習するところがいいと思いました。

わたしにもドッチボール大会のとき同じような体けんがあります。チームをきめた時、この子弱いからやだ、ぬけてほしいという声がしました。そこでわたしは、作せん会ぎで強い人が前で弱い人が後ろという意見を出しました。また、弱い子にはなげ方を教えてあげたり、せなかをむけないでボールをとるようアドバイスをしました。けっか、かつことができました。このような体けんを通して、わたしは、みんなできょう力し心をつにすることが大切だと感じました。

わたしはこの本から、さい後まであきらめずにとりくむことやみんなできょう力をする事の大切さを学びました。これから、一つの目ひょうをみんなできょう力してあきらめないでやろうと思います。